

小学校・自然資料館・市立図書館の連携授業

池側 瑠華

小学 5 年生の学習における理科の単元に「メダカのたんじょう」があります。教室でメダカは飼っていましたが、楽しみながらより深く学びたいという思いから、「きしわだ自然資料館」と「岸和田市立図書館」の方々にご協力いただき、連携して出前授業を行いました。これまで社会見学や町探検などで、それぞれの施設に行かせていただくことや学校に来ていただくことはありましたが、このような「学校」と 2 つの施設が連携して授業を行うことは初めての試みでした。そのため当日までに「どのような流れで授業を行うのか」、「どんなことを学びたいのか」、そしてそれに伴って生き物のことや必要な用具についてしっかりと連絡を取り合いながら相談して準備を進めていきました。当日は 1 クラスあたり 2 時限の授業時間で、「メダカをはじめ、川にはどんな生き物がいるのか」という授業テーマで行いました（図 1）。



図 1. 連携授業のようす（春木小学校）

自然資料館に用意していただいたスライドを電子黒板に写し、岸和田市を流れる川、津田川で見つけた生き物たちの特徴について、クイズを交えながら学びました。また実際に、自然資料館の方々が津田川で採集された身近な水の生物にふれ合いながら観察を行い、学んだ特徴をもとに「貝のグループ」、「魚のグループ」、「エビやカニのグループ」に分ける体験を行いました（図 2）。

さらに、岸和田市立図書館の司書の方に、メダカや川の生き物に関する本の紹介をしていただき、その後各班に 5 冊ずつ本を渡して、児童が自由に読む時間を設けました。また小学 6 年生の授業内容の予習にはなりますが、顕微鏡を使って実際に動いているプランクトンを電子黒板に写し出し、プランクトンの生きて動いているようすや種類などを学ぶことができました。新型コロナウイルス対策や制限、連携にともなう密な連絡など困難もありましたが、これまでさわったことのない生き物とふれ合うことができ、とても生き生きとした学習となりました。また同じ分野でも様々な本があることや、おもしろかったところ、気になったところを子どもたちが共有し、改めて本の楽しさを感じていました（図 3）。

今回の「メダカのたんじょう」の授業を通して感じたのは、学習の幅が広がったことです。生き物や本

の専門家としてそれぞれ深い知識を持った方々が協力して下さるため、その分野の知識を「学年」や「何を重点的に学びたいのか」といった授業の要望に可能な限り応じていただけます。こうして学校や子ども達の成長に合った授業展開を図ることができるのが、出前授業の良いところではないかと思います。これを機に、より多くの学校で活用していただければ幸いです。

～今回の連携授業で打ち合わせた内容～

① 時間をどのくらいに設定するか (1 時限・2 時限)

② 実施方法 (オンラインか対面か)

③ 準備物

(学校が準備するもの・自然資料館・図書館が準備するもの)

④ 学習内容についての打ち合わせ

- ・主に復習としての連携授業
- ・地域の自然など主に何かに特化した内容
- ・主に教科書には掲載されていない深く発展的な内容

【今回の連携授業についての詳細】

実施対象：小学 5 年生 2 学級

実施時間：1 学級 2 時限 (45 分×2)

指導手順：1 限目

1. 授業説明 (めあて)
2. 川の生き物紹介・観察
3. 図書館の本紹介 (ブックトーク)

2 限目

4. めだかの紹介・観察
5. プラクトン紹介・観察
6. 図書館の本紹介 (ブックトーク)
7. まとめ

学校側の準備物：電子黒板 1 台、顕微鏡 1 台、シャーレ・1 班に 1 皿、ピンセット・1 班に 1 本、円形水槽 1 班にそれぞれ大・小 1 槽、魚をすくう小さな網・1 班に 1 本、雑巾・1 班に 1 枚、虫眼鏡・1 班に 1 個、HDMI ケーブル×1 本

(いけがわるか・岸和田市立春木小学校・大芝小学校・春木中学校図書館担当)

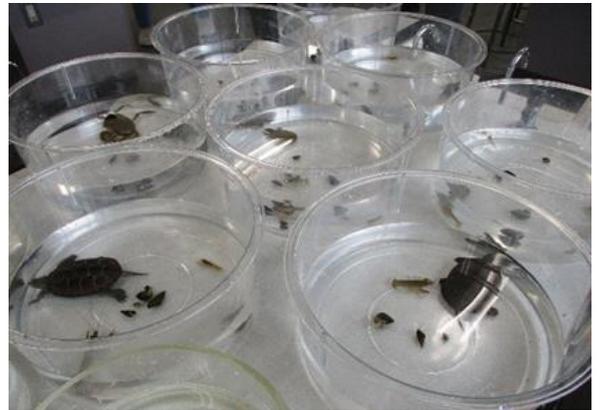


図 2. 連携授業でふれ合った生き物たち (巻貝、アメリカザリガニ、スッポン、モクズガニ、タモロコ、モツゴなど)



図 3. 岸和田市立図書館から持ってきた本の一部

岸和田は昔話の宝庫・葛城仙人「和泉名所図会」編

杉山 優子

はじめに

こんにちは！私たちおじかくらぶは、岸和田市で活動する人形劇サークルです。岸和田の昔話のなかから毎年 1 つ題材を決めて採話。文献や歴史資料の調査を経て台本を作り、人形劇にして地域の小学校、幼稚園、公民館などで上演しています。現在は上演をストップしていますが、今度いつみなさんに見てもらえるかな？と楽しみにしています。では今回も「葛城仙人」の世界へ！

描かれた和泉葛城山

葛城仙人のお話は、牛滝山のふもと大沢町の転法輪寺に住んでいたお父さんから子どもさんへ語られたお話でした。そしてそれは小学校の先生となった故高見篤良先生から子どもたちへ受け継がれました。先生と一緒に子どもたちが描いた絵は、雨を待つ人々のよろこびと自然あふれる大沢の里の風景が迫力あるタッチで描かれていました（fromM 81号参照）。岸和田の山は昔から人々に愛されてきました。江戸時代の葛城山での狩りの屏風絵は岸和田城の展示室で見ることができますが、極彩色の絵から当時の人々の生活が見えるようです。そして、これからご紹介する「和泉名所図会」からは明るい歌声が聞こえてくるようですよ。

和泉名所図会

牛滝山は紅葉の名所で、江戸時代にもたくさんの方がやってきました（図1）。お弁当を持ってなんと楽しそうなことでしょう。見ているこちらまで楽しくなります。内畑のあたりには、こうやって歩いて牛滝へやってくる人たちのために旅館もあったのだそうです。

和泉名所図会には（図2）、紅葉の美しさが次のようにほめたたえられています。

「この山の紅葉は台湾高雄の通天にも劣らずして、谷の低きも峯の高きも紅にならないところはない。その紅の中より三つの滝が段々に落ちて、牛石を差しはさんで水の音強く、霜に染められた紅葉はこの牛の背に散り重なり、錦の褥しとねを着せたようである。溪谷の早い瀬に流れるものもあり、岩の肩に舞い止まるものもあり。散っていくと坊舎の書院、厨くりやまでみな紅に染まり、人の顔も赤く頬をそめるが如くである。中国の紅葉の名所もこれに勝るものではないだろう。」

和泉名所図会には、紅葉の美しさだけでなく大威徳寺の大きな境内が何枚もの絵に渡って描かれており、今とは違う江戸時代のお寺のスケール感を感じます。

今もキャンプ場の近くの道端に「是より法界」の石柱が立っています。ここが別世界への入り口だったのでしょうか。今も残されている石柱から、江戸時代にタイムスリップできそうです。

葛城仙人。次回もまだまだ続きます！



図1. 牛滝山の紅葉見物（和泉名所図絵より）

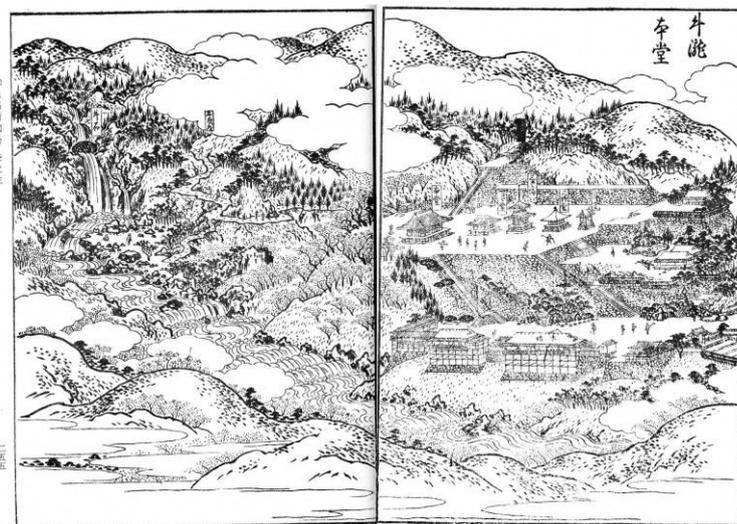


図2. 牛滝本堂とその周辺（和泉名所図会より）

Information

●自然資料館特別展

きしわだ カミカミ・ルーム

たべる・つかまえる・はこぶ…

「かむ」から学ぶ生きもののくらし

生物は、強いアゴ、歯やくちばしなどで食べ物を集めたりつかまえたりして、自分の体に取り込んで生きています。また、ときには巣をつくったり、自分や家族を守るために噛む力を使うこともあります。生物はいつから噛めるようになったのでしょうか。身近にみられるあの噛みあとは誰のものなのでしょう。生物のいろいろな「かむ」について、たくさんの標本から学びましょう。

会 期：2021年10月16日（土）～2022年1月10日（月・祝）

休館日：祝日を除く毎週月曜日・祝日の翌日・

12月28日～1月3日

開館時間：10:00～17:00（入場は16:00まで）

会 場：自然資料館1階ホール

入場料：大人400円、中学生以下無料（1月10日は、「関西文化の日プラス」のため自然資料館の展示を無料で見学できます）

●自然資料館企画展

見て みて 宝の石ころ

－ Kazkaz コレクション展 －

自然資料館に寄贈された鉱物・化石コレクションの展示です。さわれる鉱物や化石もあります。

会 期：2022年1月29日（土）～2月20日（日）

開館時間：10:00～17:00（入場は16:00まで）

会 場：自然資料館1階ホール

入場料：無料（常設展は有料）

●岸和田城の展示

地域から見える生業

～海から山まで多様な岸和田～

岸和田市の多様な地域性に焦点を当て、人々の暮らしの歴史を紹介します。

期 間：2022年1月16日（日）まで

開場時間：10:00～17:00（入場は16:00まで）

会 場：岸和田城天守閣（岸和田市岸城町）

入場料：大人300円、中学生以下無料

問い合わせ：岸和田市郷土文化課郷土史担当（072-423-9689）

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5

きしわだ自然資料館

TEL:(072)423-8100

FAX:(072)423-8101

Email:sizen@city.kishiwada.osaka.jp

自然資料館ホームページ:

<https://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくご願ひ申し上げます。